

第2回 適正配置実施計画検討委員会 要点録

日 時：平成23年7月15日（金）午後3時30分から

場 所：東501会議室

出席者：阿形学校教育部長、古橋学務課長、関北大泉幼稚園長、齋藤光が丘あかね幼稚園長、宮崎光が丘むらさき幼稚園長、石橋光が丘わかば幼稚園長、瀬田光が丘さくら幼稚園長、芝田統括指導主事（教育指導課長代理）、小暮新しい学校づくり担当課長、齋藤職員係次席（庶務課長代理）、

事務局：学務課学事係、新しい学校づくり担当課新しい学校づくり担当係

次第

- 1 区立幼稚園の適正配置実施計画（素案）について
- 2 今後のスケジュール

検討事項および主な意見

1. 区立幼稚園の適正配置実施計画（素案）について

（1）人口の推移について

- ・平成7年以降、幼児数は減ってきているが、それ以上に園児数が減ってきているのは、3年保育や預かり保育の希望が増えてきたためと思われる。
- ・平成17年にいったん園児数が増え、そのあと急激に減ってきた理由は、保育園需要の急増など社会情勢の変化と考えてよいか。

（2）今後の幼稚園のあり方

- ・私立幼稚園の連携強化については、相手方のあることでもあり難しい。
- ・私立幼稚園の連携強化については、適正配置基本方針のなかにある「これからの区立幼稚園のあり方」に書かれている4項目の一つに「私立幼稚園との連携」とある。ある程度、載せざるを得ない。
- ・事務事業見直しで言われた3点と、基本方針に書いてある項目での構成かと思う。存続する幼稚園は、そういう方向の園にしますよ、となるだろう。
- ・残った幼稚園にとっては、ここの考え方が教育目標につながっていく。
- ・就学前教育とか、公共教育とか、教育の中身については、項目に入れなくてよいのか？（基本方針に書いてある4項目の一つである）「生きる力と豊かな心の育成」については入れなくてよいのか。
- ・考え方については、園長会で案を検討する。

（3）適正な区立幼稚園数

- ・大通りをはさんで南北一つずつと考えた。
- ・「ひとつの園においてすべての役割を同時に推進していくことは困難」とあるが、全部

の役割を果たすのか、役割を分担して一部を果たすのか。この園では特別支援、という
ような形にすると困るのでは？

- ・ 幼保連携と幼小連携、というふうに分けることはできるかも。
- ・ 光が丘地区の幼児の通園状況は、光が丘1～7丁目在住の幼児合計は505人。156人が私立、区立幼稚園が77人。残り270人は保育園か、未就園児である。

(4) 存続する幼稚園選定にあたっての考え方

- ・ 土地・建物の権利については、どう扱うか
- ・ 区に所有権がない園について確認したところ、必ずしも幼稚園以外への転用は認めない、ということではなかった
- ・ 幼保連携、幼小連携を視点にするのは難しい。各園でやっている。
- ・ 幼保連携、地理的な条件として、近くに保育園があった方がやりやすい、という思いはある。
- ・ 幼保連携というときに、保育園との距離は考慮しなくていいのか。隣同士にあった方が連携しやすいのではないか。
- ・ 幼保連携から進んで、一体化を考えるのであれば、近くないと難しい。
- ・ 客観的な事実で語れる視点をおいておいた方がよい。
- ・ 残す尺度は、ひとつではない。幼保連携がやりやすい、というのが尺度のひとつとしてあるのではないか。
- ・ 光が丘〇丁目に何人子どもがいるか、ということも考える必要があると思う。
- ・ 選定の視点に、立地条件、幼稚園・小学校との距離、駅からの距離、全部入ってくる。ひとつの視点ではなく総合的に判断すべき。
- ・ 視点を全部入れた一覧表があるとよい。幼保連携なら保育園との距離、連携への影響度などを項目別に比較して書いたらどうか。
- ・ (2)で選定の視点、(3)存続する園 ①〇〇幼稚園 充員率、(あり方を持ってきて) 〇〇保育園が隣接で幼保連携に適している ②〇〇幼稚園・・・のように書いていけばよいのでは。
- ・ 教室構造からすると、あかねはあまりよくないと言えるのか。
- ・ 残す園は、事務局案として出した方がよい。

(5) 素案の全体構成

- ・ 第2章 適正配置の基本的な考え方の構成は
 - 1 区立幼稚園の今後のあり方(目標にあたるもの)
 - 2 存続する幼稚園選定の視点
 - (1) 各園の状況・・・充員率、建物・土地の権利関係など
 - (2) 適正な幼稚園数・・・2園
 - (3) 地域バランス・・・南北で1園ずつ

3 存続する対象園 (1) ○○幼稚園 (選定理由)、(2) ○○幼稚園 (選定理由) というような構成でどうか。

2 今後のスケジュール

(1) 学級編制の最低人数について

- ・廃止を公表すると、子どもが集まらない可能性がある。何人だったら幼児教育が成り立つのか、何人だったら学級編制するか。
- ・○人しか来なかったら学級編制しない、他の園へ行ってほしい、となると一年早く単学年となる。現在の4歳児の保護者にも影響があるので、園での説明会できちんと説明しないといけない。
- ・5人でグループ2つ。10人は妥当だと思う。集団ゲームもできる。
- ・障害児を別枠で募集かけているわけではない。障害児を含めた人数で考えないといけない。
- ・学級編制の最低人数は10人で、障害児の受け入れ人数については次回検討したい。

(2) 今後のスケジュール

- ・再面接の日程をずらして、10月24日としたい。
- ・第一回面接は、10月17日から20日あたりで行う。
- ・通知が11月にずれ込むのはやむを得ない。私立幼稚園の募集が11月1日から始まるので、私立幼稚園の了解をとりたい。
- ・11月の1週目までに健康診断が終わるよう日程を各園で調整する。